

IoT推進コンソーシアムのこれまでの活動

株式会社三菱総合研究所（IoT推進コンソーシアム事務局）

1. IoT推進コンソーシアムの設立経緯と概要

IoT推進コンソーシアムは、IoT、ビッグデータ、人工知能等の技術を、企業・業種の枠を超えて産学官で利活用を促進するために、2015年10月23日に発足した。発起人*の3名を会長・副会長とし、更に村井会長を委員長とする15名からなる運営委員によって活動を総括している。

設立総会時点では法人会員は約800社であったが、1年半が経過した現在（2017年6月時点）法人会員は3,000社を越えている。最新の会員数や活動については本コンソーシアムのWEBサイト（<http://www.iotac.jp/>）を確認していただきたい。

2. これまでの活動

当コンソーシアムは2015年10月に設立総会を帝国ホテルにて開催し、翌年2016年10月にはCEATEC JAPAN 2016会場内にて第2回総会を開催した。



■写真. IoT推進コンソーシアム第2回総会の会場
(IoT推進コンソーシアム事務局提供)

いずれも1,000名近くの出席者を迎え、我が国におけるIoTへの関心の高さを感じることでできるイベントとなった。また、発足後の1年間は、後述のワーキンググループ（以下、WG）のもと国内での検討を重ねてきたが、今後日本企業によるグローバルなIoTビジネスの創出・普及を進めるため、第2回総会の前日に、米国のIoT団体であるIIC、OpenFog ConsortiumとMoUを締結した。その後も、2017年2月にインドのNASSCOM、同年3月にEUのAIOTIともMoUを締結し、国際連携の強化を進めている。

3. WGの活動

当コンソーシアムは、4つのWGから構成されている。技術開発WG（スマートIoT推進フォーラム）、先進的モデル

事業推進WG（IoT推進ラボ）、IoTセキュリティWG、データ流通促進WGである。

技術開発WG及び先進的モデル事業推進WGの活動については各WG事務局による紹介に譲り、ここではIoTセキュリティWG及びデータ流通促進WGについて紹介する。

4. IoTセキュリティWG

IoTセキュリティWGは、2016年1月より活動を開始。同年7月に「IoTセキュリティガイドラインver.1.0」を公表した。

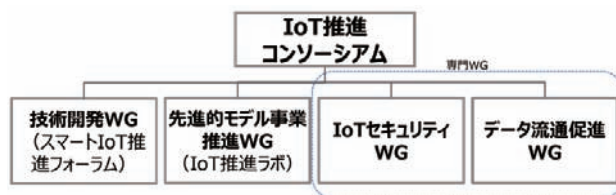
ガイドラインはIoTの特徴を踏まえた基本的なセキュリティ対策の考え方を示しており、産業界による積極的な開発等の取組みの促進と、利用者が安心してIoT機器やシステム、サービスを利用できる環境を生み出すことを目的としている。また、2017年4月には「IoTセキュリティガイドラインver1.0」英語版を公開している。

5. データ流通促進WG

データ流通促進WGは、2016年1月より活動を開始。BtoBデータ流通における課題等について、ユースケースを基に検討を重ね、2017年3月には「新たなデータ流通取引に関する検討事例集ver1.0」を、同年5月には「データの利権限に関する契約ガイドライン Ver1.0」を公表した。

2016年7月、特にニーズの多いカメラ画像の利活用については「カメラ画像利活用SWG」を設置し、2017年1月にカメラ画像の利用時に配慮すべき事項をまとめた「カメラ画像利活用ガイドブックVer1.0」を公表した。

また、2017年2月には、「データ連携SWG」を設置、データ流通事業者がデータ連携のために共通化することが必要な最低限の項目を整理した「データ流通プラットフォーム間の連携を実現するための基本的事項」を4月に公表している。



■図. IoT推進コンソーシアムの体制
(IoT推進コンソーシアムWEBサイトを参考に、三菱総合研究所にて作成)

* 慶應義塾大学 村井環境情報学部長兼教授、日本電信電話株式会社 鶴浦代表取締役社長、株式会社日立製作所 中西取締役会長・代表執行役（2015年10月当時）